

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

針ノ木岳に花を愛でる



針ノ木岳(赤沢岳から)

良い。兩岸から聞こえるウグイスやイワヒバリの協奏曲に心が和む。9時50分、アイゼンを脱ぎ、後はガレた斜面のジグザグ登りとなる。チングルマ、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、モミジカラマツなどが目を楽しませてくれる。11時、針ノ木小屋到着。

小屋に荷を置き蓮華岳に登る。蓮華岳はコマクサの宝庫である。山頂付近の岩礫のあちこちから健気に顔

7月下旬、北アルプス・針ノ木岳(2821 麓)に出かけた。夜行バスを扇沢で降り、初日は針ノ木雪渓から蓮華岳に登り針ノ木小屋泊まり。2日目、針ノ木岳を越え、国境稜線を縦走して種池山荘泊まり。3日目は爺ヶ岳往復の後、扇沢に下る計画。

早朝6時、扇沢を出発。大沢小屋へはブナ林の中の快適な登りである。時折イワナシの可憐な花が目をはく。大沢小屋からは沢沿いの登り下りとなる。タテヤマアザミ、オヤマリンドウ、ニッコウキスゲなどが色鮮やかである。



8時10分、針ノ木雪渓末端に着きアイゼンを着ける。雪渓を渡る涼風が心地

をのぞかせる薄紅色のコマクサの群落に感動した。



翌日は朝

6時に小屋を発って、針ノ木岳、スバリ岳、赤沢岳、鳴沢岳を縦走して午後3時に種池山荘に着いた。途中、針ノ木岳信濃側

斜面一帯のシナノキンバイの大群落には息を呑んだ。稜線路の足元を彩るコ



赤沢岳(スバリ岳から)

イワカガミ、アオノツガザクラ、ミヤマオダマキなどとの出会いがまた楽しかった。種池近くでは、キヌガサソウの優雅な集団の出迎えに感激した。

また、ガスの晴れ間の赤沢岳山頂では、青緑色に輝く黒部湖を隔てた剣岳の威容に圧倒された。

次の日は爺ヶ岳に登り、柏原新道経由で昼過ぎには扇沢に下山、花を堪能した山旅を終えた。



蓮華岳(柏原新道から)